

# 臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成11年(1999)大会号





# 村松高等学校東京同窓会 第42回大会 プログラム

平成11年6月5日(土) 午後2時

会場・浅草ROX・ニューオータニ

## ◎準備

- ☆ 総合指令(段取・渉外) ..... 伊藤 勇五、岡本 和子、大橋 貞夫
- ☆ 案内(来賓・特別出席者) ..... 武藤 三郎、小島 典子、真水 道子
- ☆ 受付(来賓・受付総合) ..... 芳賀 健一、鈴木多喜男、向山 律子  
八木又一郎
- (旧中・旧女) ..... 佐藤 玲子、小林 早月、渡辺 八郎  
金子 鶴男
- (高校 男子) ..... 関 孝世、新井 康夫、山崎 輝雄  
塚田 勝、高岡 英治、笠原 静夫
- (高校 女子) ..... 深見 洋子、木村 孝子、中島 和子  
渡辺 厚子
- (景品受付及び会報等配布) ..... 広田 達衛、沢出 赳允、近藤 燦子  
徳永 道子
- ☆ 会場設営 ..... 佐久間英穂、石黒 四郎、熊倉 富次  
間藤 謙一、田代 信雄
- ☆ 司会・進行 ..... 斉藤 和男、鈴木 節子、山西愈佐子

## ◎第一部 総会

- ① 東京同窓会長挨拶 ..... 会長・佐伯 益一
- ② 来賓紹介 ..... 副会長・伊藤 勇五
- ③ 同窓会長挨拶 ..... 同窓会長・伊藤 淳一
- ④ 学校長挨拶 ..... 校長・内田 力
- ⑤ 平成10年度経過及び会計報告 ..... 事務局長・八木又一郎
- ⑥ 会計監査報告 ..... 監事・塚田 勝
- ☆ 記念写真撮影(全員)

## ◎第二部 懇親会

- ・乾杯 ..... 出席高齢者の中から
- ・アトラクション ..... 演歌歌手・杉 幸子
- ・越後民謡・踊り ..... 民謡同好会
- ・抽選会 ..... 篠川 恒夫、ほか幹事
- ・校歌・応援歌ほか ..... 全員
- ・万歳三唱 ..... 校長・内田 力
- ・手締め ..... 会長・佐伯 益一
- ・閉会挨拶(御礼) ..... 副会長・岡本 和子

## ◎表紙について

題字……東京同窓会と名称変更を記念し、第27号から「臥龍が丘は緑なり」の字体の変更を検討し、常任幹事会から(佐伯益一氏の“筆文字”)を推薦し、幹事会で審議決定したものです。

写真……(自由の女神像とレインボーブリッジ)……パリ・セヌ川畔から移築された“自由の女神”像は、高さ20.5m(1998年11月から1999年5月まで)……12月25日、お台場海浜公園で写す。



## 《活性化》って いったいなんだ？

東京同窓会長 佐伯 益一



こんど肩書がかわった。今まで長年親しんできた同窓会東京支部の名称が今年4月1日より東京同窓会に改称されたことに因るものである。

昨年支部大会でもこれに触れ、以後何回かの役員会で検討、決定をみたものであるが、勿論 会員同士の親睦、情報交換等を更に深め、惹いては母校の発展、活動を陰ながら応援すると共に、21世紀に向け大いに飛翔せんがためにも先ず同窓会の活性化を図り、会の基盤を確立しようとの意図からであることは、充分ご理解いただけると思う。

しかし残念ながら現今 会員の高齢化が進み新入会員の数が極めて少ない現状は否定できない。

高齢化はしかたがないとしても会員増加の対策はこれを如何に講ずるかである。新卒業生ばかりが対象でなく在京の既卒業同窓生にも云えることだが、魅力がないのか、関心がないのか、それとも会の存在を知らぬのか、原因は色々であろうが、この対策は焦眉の急である。

(役員諸氏も真剣に考えている処でもあるが……)

毎年開催する大会には来賓は別として三百五十名位の在籍会員に通知を出すが出席者は 約百十名前後でしかない。それでも出席者は懇親会を楽しみ、会報や記念品を大事に「また次も来よう」と喜んで帰る。これは主催者にとって大変嬉しいことである。

然し何だかまだ物足りない。お祭りは終わったが 果たしてこれで同窓会の活性化は図れるのだろうかと思えるようになった。

そこで表題の文句になったわけであるが、いったい活性化とはなんだと疑問を持った。

最近、屢々見聞する言葉であるが過疎化した地区、中小の企業、学校、ボランティアを含む諸団体等が対象にされている。しかし「活性化を図ります」というその言葉自体が、すでに結論づけられているような気がしてならぬ

言葉の意味は理解しているつもりだが、只、漠然とした実効性のない、言葉だけが空回りしているような感じを受ける。活性化するためには何が大事であり、何を為すべきかを考える事が肝要であろう。この言葉は、あくまでも願望であり期待であって具体的な行動目標、施策は示していないと私なりに考える。従って団体等を指導する立場にある人達は目標を明確にし、毅然として目的達成に努力することが大切であり、その結果については良し悪しに拘らず責任を持たねばならぬことを自覚すべきは当然であろう。私も長年、支部長として以上のことについて努力してきたつもりではあるが、間違いもあったかも知れぬ。

以上の事がらを踏まえて東京同窓会ではこの度 会則を一部改正し、副会長制を設け、また組織も改編した。役員各位が夫々の分野において責任を明確にし、自由な発想に基づき会および会員の発展に尽くすべきと企図したものである。申すまでもなく、年二回発行する会報と年一回の祭りである大会は東京の同窓会の目玉である。その他 色々の会議や催事がある。役員はこれらに全身全霊を打ち込む。そして見事な成果が挙げられている。

特に大きな催しには役員全員が相談し、特別実行委員会を設置し企画、立案、実施を図るようにしたのが今回の大きな特色である。

前述したが、会員や催事の参加者が、只 数が多ければよいと云うわけではないが、やはり多い方がよい。会員の一人ひとりが新しい会員を勧誘して下さることを重ねてお願いしたい。

特に高校卒の皆さんにである。

さて 話を変えるが最近、国旗、国歌に関する話題が巷間さわがしい。賛否両論、議論が取りざたされているが日本の国民として国旗、国歌を尊重するのは当然の事と思うがこれに反対する立場の人が極めて多いのは私には理解できない。

母校創立80周年記念式典に参列したことがあるが、国歌斉唱の際、ほとんどの生徒が歌っていなかった。歌っていたのは一部の来賓と父兄、それと僅かな先生だけであった。今年3月、卒業式への招待状をいただいたが嘗てのことを思い出し今回は是非この目で確認したいと考え、出席を予定していたが、急な用事が入り欠席の返事を出した。後日、母校へ電話をして訊いてみた。場所は分からぬが、国旗が掲揚され、国歌も歌われて、式典は厳粛裡に行われたと 伊藤ヒサ先生からご返事をいただき、ホット安堵した次第である。

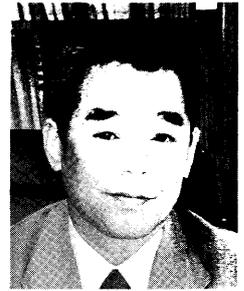
また 内田校長先生からは、今年の上級校への進学率は極めて良く、努力の甲斐があったと嬉しい報告もあった。然し、水を差すようで悪いが詳しい内容は分からぬままに今までの“松城”をみると、比較的入り易い学校が多かったのではと思考している。我々の旧制中学時代の受験競争を思い出すと、正に隔世の感である。

在校生諸君には 更に奮励努力、勉学に励んで頂きたいと願う処でもある。 愈々最後となったが、平成13年には母校創立90周年を迎える。立派な行事が行われるよう願っている。卒業生はもう二万人になっているからである。同窓各位の今までの東京支部へのご支援、ご協力を深謝し、併せて今後益々のご健勝、ご多幸を祈り、会報第27号発行のご挨拶に代える。



## 学校が変わり始めた

新潟県立村松高等学校  
校長 内田 力



### ◎4月7日(水) 快晴

明日は始業式と入学式である。今日の職員会議で今年一年間の本校の取り組む課題と要点を話すことにしており、いささか緊張した精神状態が心地よい。

学校が始まれば、村松町の校長公舎からの出勤になるが、年度初めの休暇中は、新潟の自宅から出勤している。信濃川東側の土手沿いの道から、新津市の金津峠を越え五泉市の萩曾根から右折して、村松方面へ車を向けて走らせる。「うーん、きれいだ!」ほとんどがまだ残雪に覆われている「白山」が実にきれいだ。今朝の好天の勢か、朝日に映える白山の美しさに心を奪われ見直した。そう言えば、昨夜のテレビニュースが今年初めて白山に登山した人達の様子を報道した事も思い出す。車を止め外に出て、ゆっくりと時間をかけて眺めて見た。下の方に広がる村松の町並みも輝いている。すぐ上には「臥龍が丘」が一際緑濃く、愛宕山(103m)の辺りから右手の方向に伸びているのが力強くも感じられた。

立っている所から西側に続くなだらかな丘陵地帯や、東の菅名岳(909m)に始まる山々もあるが、何と言っても臥龍が丘の上に繋がる、正面に見える白山(1012m)や粟ヶ岳(1293m)からは、雄大さと同時に荘厳な感じさえ伝わって来るような気がした。

ふと、学校創立の昔から年度始めに学校に向かう道々で決意も新たに、こんなにきれいな景色と自然を感じながら、多くの松高の卒業生が登校して行ったと思ったとき、何か言葉に言い表せないような勇気と感動を覚えた。とても素晴らしい村松の春と、豊かな自然を感じさせてくれた一日の始まりであった。

### ◎松高が変わり始めた

年度始め、町教育委員会や小・中学校の校長・教頭先生方との話の中で「松高は変わりましたね」と何人もの人達から言われた。街で見掛ける生徒からは、最近の松高生は随分落ち着いてきたと感じるようになったこと、学校では勉強も頑張ってる様子ですね・と。

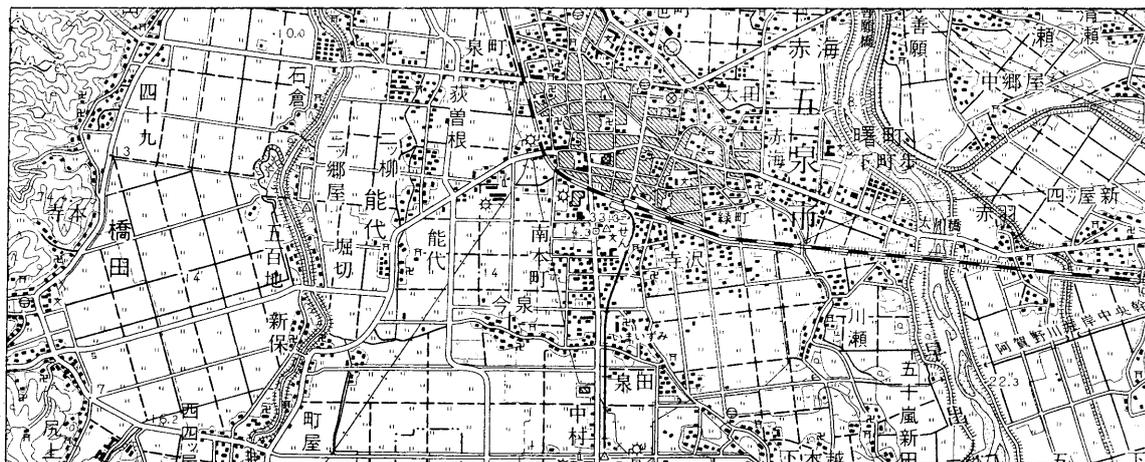
人間、他人から褒めてもらうことは、大変嬉しいことで早速職員にもそのことを伝えながら、今後の取り組みへの励みにしようと思った。

間もなく創立90周年を迎える。県内でも有数の歴史と輝かしい伝統を刻んで来た松高には、まさに雄伏の歳々もあったと思われるが、自分でも確かに上昇の機運が感じられるようになってきたと思われる。

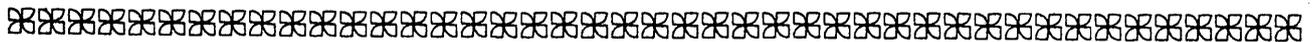
4・5年前までは、大学・短大への進学者は20名前後と、それでも持ち直してきた状態が去年は36名、そして今春は52の大学・短大に合格できるようにもなってきた。この事は「松高では進学が難しい」との声を全く消し去ることであり、卒業生は勿論のこと松高の立て直しに取り組んでこられた、伊藤同窓会長、藤田副会長始め地元同窓会関係者の長い間のご尽力によるものと、心から感謝申し上げるところである。

さらに「先生方も一生懸命にやっている」との声も大変有り難く力強い応援と受け止めている。少しずつではあっても「もう、無理に遠くの学校にやらなくても松高で大丈夫だ」という言葉に答えられるよう、職員共々精進していく所存である。

今後とも、変わらぬご理解と、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



国土地理院発行・五万分之一地形図  
「新津」より五泉市街部分(上)が北



## 平成 10 年度・東京支部の動き

平成 10 年

- 4月 4日 赤山会 アルカディア市ヶ谷  
 18日 常任幹事会、幹事会・大会案内状発送  
 新潟県人会館 27名  
 24日 吉川、内田・前新校長歡送迎会=村松  
 東京支部より佐伯・伊藤2名出席  
 25日 会報25号 編集会議・県人会館 6名  
 5月 2日 会報25号 編集会議・県人会館 7名  
 6日 会報25号 最終会議・ツルマキ 3名  
 7日 会報25号原稿、印刷屋へ渡す  
 19日 会報25号校正・ツルマキ 2名  
 20日 幹事会代表、会場側と大会準備打合せ  
 品川プリンスホテル  
 6月 3日 会報25号出来上り 450部  
 6日 第41回大会・品川プリンスホテル  
 出席者……会員104名 来賓16名  
 合計120名……会報配布  
 19日 常任幹事会(戸田・和樹) 5名  
 7月 7日 会報25号発送 270通  
 11日 幹事会・組織改革の件 県人会館20名  
 8月16日 同窓会本部総会・新滝(村松)  
 支部より出席=佐伯、深見  
 9月 5日 幹事会・組織改革の件  
 ネスパス新潟 19名

- 10月10日 常任幹事会 戸田市…和樹 9名  
 31日 会報26号編集会議 戸田市…和樹  
 11月13日 会報26号編集会議  
 銀座オールドムービー 5名  
 14日 赤山会 アルカディア市ヶ谷  
 18日 会報26号原稿 印刷屋へ  
 12月 5日 会報26号 校正作業  
 19日 常任幹事会 会報26号発送  
 新潟県人会館  
 1月24日 支部長・組織委員長・副委員長会議  
 2月20日 常任幹事会  
 幹事会 浅草ROXニューオータニ  
 20名  
 3月16日 会報27号編集会議 丸の内 3名

### お便りの中から

酒井 邦男(高5回卒)

◎「臥龍が丘…」有難く拝見いたしました。東京支部の皆様がいつもお元気で、こちらも大いに勇気を与えられます。さて、母校の同窓会長が茂野敏郎氏から伊藤淳一氏へとバトンタッチされたとの事、皆様と共にご同慶に耐えません。

茂野様、長い間本当にありがとうございました。小生1991年から8年間、母校に勤務させていただき、その間、同窓会係として、東京支部大会出席を含めてあらゆる面で茂野会長に教えていただきました。頭脳の明晰お人柄の暖かさ、こういう方が会長であられることに喜びと誇りを感じておりました。遇鈍にして軽薄な小生に人間あるべき姿を教えて下された事に、改めて深くお礼申しあげます。

伊藤先生、同級生2万数千名の中で、先生ほど母校を愛して下さる方はおりません。21世紀の同窓会に対する先生の素晴らしい「VISION」を今こそ実行に移して下さい。両先輩、並びに佐伯様をはじめとする東京支部の皆様のご健勝をお祈りいたします。

### お便りの中から

村松高校・校長 内田 力

◎村松公園の桜も、ほぼ満開を越えていますが、今日は季節外れの低気圧と雨風で、とても花見気分にはなれない寒い一日になりました。

松高に赴任して以来ではありますが、村松の四季折々の自然の素晴らしさに感動する度に、故郷を離れて暮らしておられる同窓の方々のことが思い起こされてなりません。原稿にも書きましたが、今春大学進学者の数が、やっと50の台に近付いています。良いことばかり続くとは思われませんが、せめて良くなっている時こそ、皆さんと共に喜びたいと思います。そして次の機会にも良い知らせが出来るよう頑張っていくことにしたいのです。今春は新潟大学への合格者もいますが、今後は大学や短大の内容の向上を図ることも大きな課題です。

特筆すべきは「大学入試センター試験」を受験し、実力で大学受験に挑戦する生徒が、20名ほども出てきたことです。これからも、必ず通らなくてはならない重要な関門でもあり、受験生諸君は元より、指導に当たった担任や職員の努力も大きかったことと報告させていただきます。生徒の服装や生活、学校がきれいになってきたとの話も聞こえはじめ、少しずつではあっても職員にも自信が感じられるようにも思われます。今後とも、様々な機会を通して学校への叱咤激励を戴けますようお願い申しあげます。

東京同窓会の皆様のみますのご健勝とご発展を祈念しながら、別紙の素稿をお届けのご挨拶といたします。

4月の役員会、併せて6月の東京同窓会総会のご盛会を心からお祈りいたします。4月14日(水)くもり

# ありがとうございました

## ①平成10年度・会費納入の皆さん（敬称略）

### ◎旧中の部（48名）

相田幸四郎、相田忠亮、相田和平、伊藤勇五、伊藤秀男、伊藤達郎、市川薫平、五十嵐一郎、板垣文平、岩見益教、遠藤順、落合常雄、亀嶋 謙、片桐賢太郎、笠原健二郎、北沢卓夫、熊倉 悟、小島眞一、小柳 実、齊藤和男、齊藤朝之、齊藤誠七郎、佐伯益一、坂上庸蔵、佐藤豊夫、佐久間精一、関谷捨蔵、高久貞夫、団 順一、千代國一、寺田徳隣、成海正弘、西山荘平、二平 晶、芳賀健一、福原平八郎、松尾貢、松田長四郎、丸山一夫、水尾広吉、宮 健三、武藤三郎、山口三郎、横松宏平、横山昭三、吉田公男、吉田正平、芳原英男。

### ◎高校男子の部（112名）

青木 猛、青木敏和、新井康夫、安中啓作、安部 実、阿部 敏、荒川 守、五十嵐 健、伊藤勤吾、伊藤 馥、石黒四郎、稲毛越郎、今井英雄、石本良郎、石本芳雄、梅田久次、伊藤和賢、遠藤 昭、大江佳一、大島惣四郎、大橋秀雄、大橋俊夫、大橋貞夫、岡村嘉志、小笠原一憲、笠原 久、笠原大四郎、笠原静夫、金子鶴男、亀山知明、川合敏男、川村莞爾、神田弘毅、木村安雄、岸谷 武、杵渕政海、熊倉芳夫、雲村俊徳、熊倉富次、剣持常泰、小池生夫、小林末吉、小日山芳榮、近藤毅夫、近藤英洋、近藤洋輝、近藤尚志、佐久間英輔、佐藤匡秀、篠川恒夫、沢出起允、佐々木秀和、坂上卓夫、齊藤収二、新保 優、下野文幹、杉山 勇、鈴木健司、鈴木多喜男、鈴木忠雄、鈴木輝雄、関 孝世、関塚 豪、田代信雄、高岡雄三、高地 彰、滝沢信喜、高山幹雄、高岡英治、田沢敬司、長賀一哉、高岡英治、塚田 勝、土田 猛、坪谷次郎、鶴巻旒三、鶴巻 浩、鶴巻静夫、弦巻 等、寺山和夫、中川善隆、中村雅臣、中川四郎、二宮文三、根本俊夫、長谷川五郎、長谷川洋夫、長谷川宏一、樋口栄二郎、廣田達衛、松尾眞一郎、松尾正春、松尾 了、松井 孝、松田茂夫、松尾保司、間藤謙一、三室茂和、宮沢正由、日黒義二、武藤正昭、村川五郎、村川恭平、八木又一郎、梁取正通、山崎輝雄、山田一男、吉井 清、米山正禎、横山昭三、渡辺八郎、関谷雄二

### ◎旧高女の部（15名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、大橋玉枝、岡本和子、熊倉芳枝、小林早月、近藤昌子、佐藤玲子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ、藤崎トヨ、堀和子、丸山セイ子

### ◎高校女子の部（57名…尚、26号掲載は9年度会費）

荒井るり子、安達繁子、飯利 幸、今井義子、小沢幸子、緒方康子、緒形美恵子、大嶋エミ、大野靖子、岡部ユキ、大橋マツエ、加藤久子、片柳ムツ、神田正子、木村孝子、久我マキ、熊倉悦子、桑原トム、小島典子、近藤燦子、許斐紀子、佐々木恵美、佐藤八重、斎木明子、坂爪圭子、佐野美枝子、佐久間順子、島田淑子、白石キヨ、鈴木則子、田川百合子、田中富子、高橋睦子、竹島幸子、田淵みやの、高浜つる子、高尾佳子、寺山征子、出口テル、徳永道子、中川米子、中島和子、波多ミサエ、深見洋子、真水道子、升本久子、松本知子、松尾恵子、宮腰ヨイ、向山律子、山下由紀子、山西愈佐子、山田良、横溝田鶴、吉井祐江、渡辺厚子（26号掲載＝岡部ユキ）  
男子=160名 女子=72名 合計=232名  
金額 696,000円

## ②平成10年度・寄付された皆さん（敬称略）

### ◎男子の部（34名） 計 100,000円

17,000円 亀嶋 謙  
7,000円 川合敏男、雲村俊徳、山崎輝雄、塚田 勝  
3,000円 北沢卓夫  
2,000円 新井康夫、伊藤秀男、伊藤勤吾、石本芳雄、大橋俊夫、亀山知明、近藤洋輝、小日山芳榮、小柳 実、沢出起允、下野文幹、鈴木健司、関谷捨蔵、団 順一、鶴巻静夫、寺山和夫、中村雅臣、二宮文三、西山荘平、松田長四郎、武藤三郎、武藤正昭、梁取正通、吉田正平、芳原英男、吉田公男、横松宏平

1,000円 高久貞夫

### ◎女子の部（8名） 計 17,000円

3,000円 大橋玉枝  
2,000円 一氏愛子、緒方康子、小島典子、新保清子、寺山征子、向山律子、横溝田鶴

◎合計 42名 金額 117,000円

### ◎会報送付御礼・寄付金② ①=26号掲載済7名

白倉清熊（中27・新津市在住）10,000円

中野 恭（女23・横浜市在住）5,000

土田式蔵（中27・村松町在住）3,000

計 18,000円

（会報寄付金は、一般会計に繰入れました）



## 平成 10 年度・会計収支決算書

(平成 10 年 4 月 1 日より平成 11 年 3 月 31 日まで)

新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

収入の部 (単位: 円)	支出の部 (単位: 円)
<p>① 年会費 696,000            男子 160 名 480,000            女子 72 名 216,000            計 232 名 ③3,000            (平成9年度分女子1名含む)</p> <p>② 寄付金 (No.26既報分共) 174,000            男子 43名 152,000            女子 9名 22,000            計 52名</p> <hr/> <p>計 ①~② 870,000</p> <p>③ 受取り利息 2,061</p> <p>④ 雑収入 5,906</p> <hr/> <p>計 ③~④ 7,967</p> <p>⑤ 第41回大会残余金 (No.26既報) 79,946</p> <p>⑥ 前年度繰り越し金 (〃) 1,679,939</p> <hr/> <p>計 ⑤~⑥ 1,759,885</p>	<p>① 会議費 6回 132,812</p> <p>② 通信費 35,690            切手ハガキ代 20,940            印刷費 6,980            封筒代 7,770</p> <p>③ 会報発行費 467,904            編集費 7回 70,639            No.25印刷費 120,045            No.26印刷費 147,315            封筒代 33,075            送料 96,830</p> <p>④ 送料 18,153            一般送料 11,040            41回大会写真 7,113</p> <p>⑤ 振込み手数料 11,642</p> <p>⑥ 備品費 43,320            事務局用FAX 17,640            同窓会ゴム印 25,680</p> <p>⑦ 同窓会本部対応費 62,190            総会参加費 30,000            新旧校長送迎会 25,190            吉川前校長記念品 7,000</p> <p>⑧ 新潟県人会对対応費 10,500            県人会報購入費 4,500            講演会参加補助 6,000</p> <p>⑨ 雑費 (文具消耗品交通費他) 18,259</p> <hr/> <p>計 ①~⑨ 800,470</p>
<p>合計 2,637,852</p>	<p>合計 800,470</p>
	<p>平成11年度へ繰越し 1,837,382            (内訳)            銀行預金 1,777,394            支部長保管 59,988</p>
<p>総計 2,637,852</p>	<p>総計 2,637,852</p>

上記の通り報告いたします。 平成11年 4月15日 支部長 佐伯 益一 ㊟

上記の決算書は監査の結果、適正であると認めます。  
 平成11年 4月24日 会計監査 芳賀 健一 ㊟  
 " 塚田 勝 ㊟



## お便りの中から

順不同（敬称略）

## クラス会 （昭和29年3月卒一組）

広島市 白石 キヨ（高3）

◎まあまあ健康に過ごしております。毎日適当に身体を動かしており健康の幸せに感謝している毎日です。ハイボス等にオタフクの「リンゴ酢」を入れて毎日飲んでます。それが健康の素かしら？ 皆々様のご健康をお祈り申し上げます。

築取 正通（高2）

◎支部長はじめ幹事の皆様、いつも精力的な会の運営、本当にご苦労さまです。会報をいただくと、あゝ皆さん元気で活躍だな…と私も元気を貰ったような気になります。これからもよろしく願います。

村松町 伊藤 淳一（中33）

◎東京の熱気にくらべ地元は大変クールです。いつも、東京の皆様の燃えているところを見せていただきたいと思っておりますが、東京のご活躍が村松の同窓に少しでも伝わってくれたらと願っています。益々のご清栄を祈念しております。

団 順一（中33）

◎毎年、同窓会の活動を心強く思いつつもご無沙汰ばかり重ねておりますことをお許し下さい。

新津市 白倉 清熊（中27）

◎会報と写真、有り難く頂戴。東京でのご健闘を讃えらると共に毎度のご配慮、厚く御礼申し上げます。ここまで生きたら20世紀を元気で胸を張って駆け抜け、2000年には校歌と“緑濃き臥龍が丘”を声高らかに歌いたいと思っています。

横浜市 中野 恭（女23）

◎会報をお送りいただきまして有り難うございました。早速、仏前に供えさせていただき皆々様のご様子、お懐かしく拝見致しております。中野（故・博氏 中27）に何時も言われておりましたことですので、すぐにお礼も申し上げられずお許し下さいませ。

私もお陰様で皆様にいろいろな形で助けて頂きながら元気で新しい年を迎えることができました。中野と暮らした日々を大事にくり返し想い暖めて過ごしております。お元気で活躍下さいます様お祈りいたします。

村松町 白井 信栄（中27）

◎いつも東京支部の会報を送って頂き有り難うございます。東京の皆さんの活躍がいろいろと書いてあり、五十年以上も前の事が想い出されます。また、同級会の際は楽しい一夜を過ごすことができました。自分の写真を見て“爺さんになったなあ”と思っています。お元気で。

◎3月6日（土）正午から、松の家（村松・学校町）において高校6回卒業、三年一組のクラス会を開催した。好天に恵まれたが真冬のような寒さで、会場へ行くまで顔や手足が冷え“雪国の春”は遠い感があった。出席者20名、元…教師、公務員、サラリーマン業で定年になった人、現在もガンバッテいる自営業の人や勤め人達が集まり年の割には皆んな元気そうだった。

年の功とテレビのおかげで、話題も広く浅く・政治・経済からバイアグラまで多種豊富で酒を大量に追加した。二次会は五泉・神田川（同行した渡辺芳子さんの娘さん経営）で。お店も小綺麗で雰囲気も 良く、ママさんが稀なる美女で酒宴に華を添えてくれた。

三次会は、五泉新道のカラオケ店へ。幹事が入店手続きをしている間に、蒲鉄の電車が寂しげな音をたてて一生懸命走っていた。このような情景をみるのも最後になるかも知れない。正午から始めた会合も9時間も経過し、とにかく事故もなく最後は体力の勝負となって、それぞれの思いを胸に散会した。

卒業時、クラスの生徒数は43名（男25・女18）でその後45年間に不幸にして女子二名が他界され、現在41名。また、住所不明者1名。40名に案内状を出し出席率は丁度50パーセント。



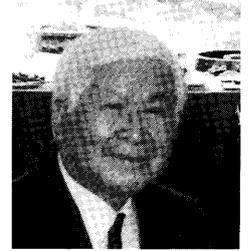
◎出席者の中に、陸上部で活躍していた後藤政之君（五泉市在住）が昨年、全国陸上競技大会で「走り高跳び・60才以上の部」で新潟県代表として参加、全国優勝を果たした。国立競技場電光掲示板に、ゴトウ・マサユキの文字を輝かせ表彰台上がり「45年前に企てた目標を達成した」とニコニコ顔で話した。卒業以来、約半世紀にわたり練習を続け、努力・精進を重ね永年の夢を実現させた。苦しかった事を思い出し嬉しさと満足感で涙が止まらなかったという。クラス仲間として彼の生き方と生活態度に敬意を表し、その精神力と健康維持・自己管理を、遅まきながら“SAMPLE”としたい。

（沢出 赳允（高6）



## 「歌会始」ほか、ことごと

千代 國一（昭和8年 旧中18回卒）



私が宮中「歌会始」の選者をつとめたのは、昭和六十四年、平成三～九年までの八回である。併し、昭和六十四年は昭和天皇崩御のため、「歌会始」は取止めとなり、平成二年に「昭和天皇を偲ぶ歌会」として催された。「歌会始」は鎌倉時代の中期まで遡ることができるが、室町時代後期に一月に行われる例となった。江戸末期に暫く途切れたが、明治二年、明治天皇により復興され、以後連綿として続けられている。現在のように選者や召人が定められ、歌の題が詠み易いように改められたのは昭和二十二年からである。

「歌会始」の選者は五名で、任期は前年七月から当年一月の「歌会始」までである。昭和二十二年から平成十一年までの選者は総数三十八名に過ぎない。三十二年までみると、佐佐木信綱、斎藤茂吉、窪田空穂、吉井勇、川田順、尾上柴舟、釈迢空、土屋文明、尾山篤二郎、四賀光子、松村英一で、歌をやらない人でも名を知る人が混じっている。新潟県出身の歌人は宮仲二（昭和四十二年）と千代國一、二人だけで、共に八回つとめている。外に召人として会津八一が昭和二十八年につとめ、その時の歌が歌碑になっている。

「歌会始」の儀は、皇居の「松の間」で行われるが、最も格式の高い室ときき、大臣の認証式や文化勲章の授与等が行われる。昭和天皇が崩御された時は、み棺がおかれ殯宮（ひんきゅう）となった。殯宮は天皇、皇族の棺を葬儀の時まで安置しておく仮の御殿を言う。私も選者の一人として、み棺の前に四十分の黙祷を捧げた。御大喪にも列席したが、殯宮の黙祷が私には最も思いが深い。

「歌会始」の歌は、毎年二万首位の歌が全国から詠進されるが、その中から入選十首、佳作十五首位を選ぶのが選者の役目である。最終の選考会議では、午前十時から午後五時までかかり、昼、晚餐の間でも、短歌以外のことが、話題にのぼることは全くない。選考の方法は、百首程の最終候補の中から、一首ずつ五名の選者が意見を交わしながら選考し、意見の一致したものが入選となり、それに準ずるものが佳作となる。入選歌は多くの歌の中から選ばれるものであるから、秀作であることは当然であるが、「歌会始」が終わったあと、選者と入選者との間で、一時間の懇談、批評会が持たれ、その時、職業や歌歴のことなども語られるが、歌歴の浅い入選者が案外に多いことが知られる。その方が歌が素直で、新鮮感があったりするのである。

平成九年の「歌会始」の題は「姿」であった。題としては難しい方である。私には前年の八月、郡上（ぐじょう）踊りを見るため、岐阜県郡上郡八幡町を訪れた際に見た郡上八幡城が素材として浮かんだ。

八幡町は村松町より小さな町であるが、村松町が周辺は田圃で、山に囲まれているのと異なり、長良川の支流の吉田川の清流が街を流れ、その川を挟むように町が開け、それを山が囲んでいた。郡上八幡城は四百四十年の歴史があって、城の石垣が乱れて膨らんだ処があり、生えた苔生が枯れていた。そのたまたまいに心を打たれ、二首作った。

興亡の幾代（いくよ）をいまに城の垣  
石のいのちの姿しづまる 応制歌

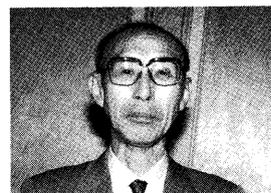
城の垣苔生（ひび）枯れつつ積む石の  
容（かたち）さながら歳月（としづか）を負ふ

前の歌は、「歌会始」の題「姿」を詠み込んで応制歌とした。処が、そのことが 誰言うとなく八幡町に知れわたり、町当局や町民の熱意が盛り上がり、平成十年五月、郡上八幡城の城山の山頂に後の歌の歌碑が建立された。除幕式に、“歌は作者の分身とも言える。ここに完成した碑（いしぶみ）は私の分身と思って頂ければありがたい

八幡町は私の心のふるさととなった。歌碑建立を機に一層 歌に力を尽したい”と挨拶した。私には村松町の城跡公園に歌碑があり、新潟と岐阜と故郷が二つになった。司馬遼太郎の「街道を行く」に郡上八幡城のことが書かれており、連歌師の宗祇（そうぎ）が城主の東常緑（とうじょうりく）から古今集の奥儀の伝授を受けるため何年か城に通ったとある。「東氏の初代胤行（はつゆき）は鎌倉幕府の御家人で和歌に優れ、藤原定家の子・為家から歌道を学ぶと共にその娘を妻とし、中央歌壇に名を知られた。以後、東氏は代々歌道に優れていたが、中でも九代常緑は高名な歌人であると共に「古今集」研究の第一人者であった」と、古今伝授の里、大和（やまと）町の刷り物に記されている。大和町は八幡町の近くにある街で、東氏庭園、東氏記念館、和歌文学館等がある。和歌文学館には、私の蔵書千三百冊と、短冊一葉を寄贈したが、私は まだ訪れてはいない。古今伝授は「中世後期に行われた歌道伝授の一形式。古今集を講釈し、その注説の重要な部分を切紙（きりかみ）として示し、これに古注、証状、相承系図を付して伝授した」と『日本史広辞典』に記されている。郡上踊りは無形文化財となっており、盆踊りであるが七月から三月（みづ）も踊り継がれ、全国から人が訪れて町民より多く踊っている。（平成十一年四月）

…… ————— ……  
この玉章はご多忙中にも拘らず無理にお願いして執筆して頂いたものです。厚く御礼申し上げます。（佐伯）

## 旧制・新潟県立村松中学の思い出



旧中 22 回卒 亀嶋 謙

私は昭和 7 年（1932）4 月に旧制村松中学へ入学した。旧制中学は 5 年制であったから、昭和 12 年 3 月卒業となる。小学校は五泉で、私の実家は新発田市で生れると直ぐ親類で子供の無かった五泉の亀嶋家へ養子に入った。実兄弟は五男一女で私が末弟で兄達は皆、旧制・新発田中学へ入ったが、私だけ村松中学へ進んだ。

村松中学へ入った時の感激は今でもよく覚えている。初めて黒地の木綿の制服を着て真新しい「松葉」を模した徽章の帽子を被ると自分の中身が全く変わってしまったように感じられた。中蒲原郡には中学は村松だけで、県下でも十二校位しか無かったので地方では、中学卒の学歴はエリート時代でもあった。教科書は村松の石黒書店で求め、生れて初めての英語の本を胸に固く抱きしめた。他の教科書も今までの薄っぺらな国定教科書とは違い、分厚くて立派で難しいそうで、漢和辞典の厚さと重さに驚き感激した。

家から学校まで凡そ 5 キロの道のりで、私は積雪期を除いては 5 年間自転車通学した。風雨の日は辛かったが天候の良い頃は心地よく、帰りは遠く回り道をして旧川東村や橋田村を通ったりした。あの頃の田園や山裾の風景は後々の私の人生に、大きなものを与えてくれたと思っている。

### ◎上級生

入学して一ヶ月間位は嬉しくて仕方がなかった。学友と校歌“塵の巻を遠ざけて”や応援歌“みどり濃き臥龍ヶ丘に”を歌い、その歌詞や曲の良さに魅入ってわくわくする思いであった。それが三ヶ月も経つと学校へ行くのが嫌になってきた。いや、怖くなったのである。

一番怖かったのは上級生であった。あの頃、田舎の中学校は全国的にそうだったのか、上級生が軍隊的な権力を握っていて、先生に敬礼を忘れても上級生には絶対であった。上級生に睨まれると蛇に対する蛙のようなもので私的な鉄拳制裁が半ば黙認されていたようで、文句の持ってゆき場もなく、他にもしごきは沢山あった。放課後、応援歌の練習と称して校庭に集められ、声の限り歌わされ息の詰まる思いがしたこともある。また、年に一回、五年生が四年生以下を剣道場に座らせて「慨嘆演説会」なる制裁を行う。詰まらぬ理由が多かったが何かと因縁をつけては、下級生を名指しで立たせ反省と称して集団で暴行を加えるのであった。一、二年生などは震え上がって生きた気もせず、ただ怖い思いがするだけであった。後年、軍隊でも、もっと野蛮な制裁を受けたが一面、人間的に鍛える意図があったのかもしれぬが、いい風習ではない。

### ◎先生の思い出と渾名

当時の中学生は先生に「あだ名」を付けるのが実に上手で夫々天分的な感じを持っていた。私たちは今でも当時の先生は名前より渾名の方を覚えている。あだ名を言うと忽然として六十年前の先生方の顔や、授業風景が鮮やかに目に浮かんでくる。全部の先生に渾名がついていた。このような事は、戦前の学校でも中学だけではなくただだろうか。小学校や大学にも例外的にあったが多くの場合は名前に先生とか教官、教授とかの敬称をつけて呼んでいた。村松中学の先生方には傑作が多かった。あだ名はよく躰や、性格を表すと評せられているが、此処では私に関係の深かった先生方を中心に記してみる。

### ◎スッポン（亀類のこと）

柔道の笠原先生である。後ろ姿はまさにスッポン亀のように肩幅広く、首は太く、且つ短かった。先生は我々の大先輩で（大正 14 年・第 10 回卒）東京高等師範体育科出で、柔道四段であった。当時、柔剣道は授業の正課であり、私は三年生の時に柔道部に入り、先生の指導によって四年生の終り頃に初段を取った。先生は温厚な人柄で、上の人にも下の人にも隔てなく接してこられた。卒業後も長く度々お目にかかった。長生きされた。

### ◎グンチャ（小さな川魚の…グズのこと）

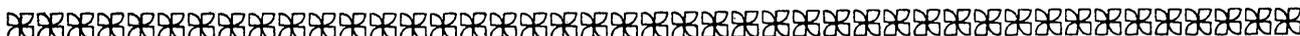
数学の石田喜三郎先生である。躰も顔も小柄でせこせこ動く姿からであろうが、本当はキビキビした教育熱心な先生で、独学で検定試験に合格した努力家であった。

我々のクラスの担任であったこともある。ところで、私は数学が苦手な方で、特に幾何・三角関数・対数は不得意でまた不勉強でもあった。先生にはよく叱られた。「お前は理科系は駄目だ」と言われ、貰う点数も悪かった。後年私は三十才代初めから囲碁に凝り中でも詰碁をみっちり碁の先生に学び、本でも勉強したことがある。その時に「中学時代に詰碁が分かっていたら、数学なんか易しかったのになあ」と思ったりもした。

偶々帰省した折、石田先生にお会いしたので、その話をしたところ「もう遅いよ、何故、学校時代にその気にならなかったのかね」と言われた苦い思い出がある。

### ◎味噌玉（頭の格好）

地理、歴史の増木策三先生である。先生の頭の格好は大きさが味噌玉の形にそっくりであった。渾名の中でも傑作である。地理、歴史は私の好きな学科で自慢話になるが、この先生に地理は四年、五年と続けて百点満点を貰ったことがある。長い学校歴の中で百点満点はこの時だけである。私の暗記力もあったのであろう。地味で温厚な先生であったが、惜しくも間もなく転任された。



### ◎チコ（小人びとの意味か）

国語、漢文の里見法英先生である。身長、体重ともに一回り小柄な方であったことから付けられたのであろう福井県のお寺のご出身で、確か東洋大学文学部を出られたと覚えている。私は国漢が好きで、また得意でもあった。そんなことで、先生には個人的にも可愛がって戴き根木町のご自宅へも何回かお伺いした。隣家は剣道の奈良先生のお宅であったように覚えている。

最初、四年生の夏にお邪魔した時、岩波の文庫本を見せて戴き岩波文庫なるものを初めて知った。次の時には文庫版の漱石の「坊っちゃん」を一冊頂戴し、面白くて一晩中夢中で読んだ。岩波文庫のファンになった始まりである。その外、漢文では「十八史略」も戴いている。先生は戦後、東京へ出られ日本赤十字社の局長をしておられた。その頃も幾度かお会いしたことがあり、私には懐かしい恩師である。

### ◎トサ（土佐犬のことか）

英語の岡島清先生のごことで当時、教頭であった。大阪外語の出だったと思う。顔付きが土佐犬に似ていたし、高知県の出身であったかも知れぬ。よく大声で生徒を叱っていたから付いたのであろう。また吠えたとき生徒達が恐れ入っていたが、本当は人情味のある先生であった。

私は英語は割りと好きな学科だったので、よく職員室の中まで入って行って遠慮なく質問したり、話をして貰った記憶がある。

思い出に残る、まだ多くの先生方も居られるが、今はこの位にしておこう。

### ◎三代の校長先生

昭和七年に入学した時の校長は鈴木諒先生であった。一年生で顔さえよく覚えないうちに間もなく転任された。在任期間が長かったらしい。人間的にも立派な校長であったのか、先輩達の間でよく話題に上がっていた。よほど慕われて居た方であったと思う。

次の校長は新発田高女の校長から転任された、内田嫺老先生である。女生徒を相手にされていたせいか、温厚な方で校長としては珍しく音楽を担当し、ピアノをよく弾いていた。功績らしきこともなく、ただ平々凡々のうちに二年位で転勤された。従って印象はまことに薄い。

次に来られた校長が、これまでの校長とは打って変わった人で、小野寺精一郎先生という。京都帝大哲学科の出身とか、松中にとっては開校以来の校長であった。

ところが、この校長は大変な激情家で、精神主義者でもあった。率直に言えば精神異常者ともいえる。激すると狂人のようであった。毎日、朝礼、授業の始めに黙想をさせる。授業の休み時などは駆け足を、規定の用紙に反省録を書いて提出させる。精神訓話が好きで静かに聞いていないと激しい言葉で怒る。年齢の差を考えると、まだ子供にも等しい生徒に向かって余りにも酷いと思った。とにかく生徒、教師に対して自分の考え通り実行する主義で、少しでも反抗の気配を示す者は徹底的に押さえたようだ。

### ◎ストライキ事件

遂に五年生がストライキを執行し、抗議文を突き付けて町の神社の社務所に立てこもり事情を内外に訴えた。四年生だった私も下校の途中、柔道部の上級生の一団に誘われ、四、五人で神社へ駆けつけた。五年生達はリーダーの人達の経過報告や演説があった直後らしく、皆頭を低く垂れ無言のままであった。そこには正邪論ではなく、若く純情な空気が満ち満ちていて感動的であった。今でも、あの光景が鮮烈に残っている。結局、この事件は卒業生の有力者達が仲介に入り一人の処罰者も出さず表面上は無事納まった。しかし平穩は僅かの間で小野寺校長の胸中にはなお、治まらざるものがあつたとみえ、後は事々に無理を通し教師も校長の言動に従わざるを得なかったようである。

### ◎ひとつの功績

ひとつ付け加えるならば、小野寺校長にも功績があつたように思われる。校長は赴任すると一年位の間に教師の大移動を実施したことである。転任させた教師は人柄が良いが能力的に不適と判断した先生、生徒間に人気のあるボス的存在で、評判ほどの実力は無いと判断した先生、自分の方針にやや批判的な古くからいる先生などで、この基準に従い思い切りよく果敢に入れ換えを実行したのである。新任の教師として迎えた先生は若くて優秀な大学出の先生が主で、田舎の中学では珍しい位の先生達で皆、教育熱心であった。生徒の成績も上がったことである。私が五年生になっても校長は小野寺先生であった。先生は剣道をやり、テニスも、また、ピアノも趣味として弾いておられたと聞いている。

### ◎述懐

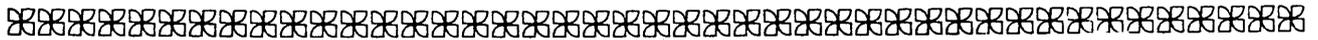
私は、特に進学の勉強もしなかったし、ただ個人的な趣味や、仲の良い友人との交流があるだけであった。元来、私は選手の質であった上に、この大事な青春時代をふわふわとした気持ちで、過ごしてしまったことを後々かなりの年齢になるまで、折々悔いて止まないことがあつた。しかし今の年齢になると、やはり良き学校であり良き時代、善い環境であり、懐かしさで一杯である。八十年の人生の中で夢のようなロマンチズムに溢れた唯一の年月であつたと思う。

### ◎学校行事の思い出

中学へ入学した時は、100名であつたが卒業時には、80名位になった。しかし五年間一緒であつたから密度は濃い。全校として懐かしい行事もあつた。軍事演習、修学旅行、マラソン大会、運動会、寒稽古、土用稽古等々である。特に気の合う仲間との交わりは一層深い。

### ◎鳥海山（標高 2,236m）登山

四年生の夏休みに奥羽地方の最高峰「鳥海山」へ高橋十二郎先生に引率され、小野里健（旧佐藤）川瀬広介君らと共に登った。三泊四日の強行日程であつたが登りも下りも大変苦しかった。下山後、酒田市を回り鄙びた温泉に泊まって来たのも、楽しい思い出の一つである。



### ◎キャンプを楽しむ

五年生の夏、小野里健、栗原啓策、早川省三君たちと私の四人で学校から軍用天幕を借りて、三泊四日の予定で阿賀野川上流、五頭山、大日ガ原でのキャンプ生活を楽しんだ。第一日目は阿賀野川上流沿いを散策し河原にテントを張った。夜になると川音が響いて容易に眠れなかったのが印象に残っている。二日目は快晴に恵まれ、五頭山へ登った。低い山（912m）だからと見くびっていたが、とんでもない。帰りに道を間違え深い樹林の中へ迷い込んで散々歩き回った。奥の深い山であることを知らなかったのである。あたりが暗くなりかけた頃、ようやく瀬の流れを見つけ、足元に注意しながら瀬に伝わって下山、村杉温泉のはずれらしい処に辿り着いた。適当な宿に一泊を乞うたが皆お金がない。番頭に頼み込んで一晩泊まるだけ、朝食は飯と汁だけの約束で一人当たり、70銭にしてもらった。学校の制服制帽が効いたらしい。空腹だったが夕食が出ず、煎餅を少し買ってきて、お茶をガブガブ飲んで我慢した。しかし温泉にも浸かっ

て疲れを癒すことが出来、翌日の朝食は最高の思いで食べた。三日目は、大日ガ原の原野にテントを張った。キャンプ生活は楽しさだけを想像するが、実際は苦しいことが多いものである。明け方は冷えるためテント脇に焚火をして皆で暖まった。テントの中には虫が入ってきてとても安眠できない。虻の大きな奴によく刺された。飯盒生活も三日目位になると嫌になる。焚き火を囲んで何を話し合ったかは覚えていないが、青春の灯が燃えていたことは間違いないところである。

### ◎おわりに

仲の良かった学友は皆亡くなった。前述の小野里健、川瀬広介、栗原啓策、早川省三君らも今は亡く、山田克司（戦死）、間藤吉郎（マスマ）、藤木昇吉、滝沢三司、渡辺旦治、中村倉吉君らも逝ってしまった。一番、身体が弱かった私だけが生き残っている。人生は先が全く分らないことを、つくづく感ずるのみである。

本年・傘寿を迎えるにあたって……平成11年 1月記す

## メダカの佃煮

毎日新聞・愛楽帳より（H 7.5.11）

◎メダカを食べたことがありますか？ 37年かけて全国のメダカの方言（呼び名）を調べた辛川十歩さんの著書「メダカの方言」には、その昔、各地でメダカを食べた話が載っている。「醤油をさし煎りあげて食う」（秋田県島海町）、「エビなどと煮る」（千葉県茂原市）、「9月から10月にかけて捕まえ佃煮にする」（滋賀県竜王町）、「ザッコ（メダカ）のみそ汁」（大牟田市）

新潟県村松町では、メダカのことをウルメと呼ぶ。辛川さんの本には「稲刈りのころウルメを捕えて佃煮を作る。少しほろ苦く美味」と記されているが、このあたりには今もメダカ料理が残っている。村松藩の飛び地だった見附市の堀川岩男さんは6年前、メダカの佃煮の製造販売を始めた。商品名は「ウルメの佃煮」。養殖池を借りてメダカを育てている。「冬に入る前が脂がのってうまい。ひと瓶に200匹から250匹入って、1800円。たくさん出来ないし値段もちょっと高い」。

味のポイントは、はらわたのほろ苦さ。メダカなんて食べて、と人から言われるのは何ともない。先祖はけっこうメダカを食べていたのだ。佃煮は、あつあつのご飯にのせて食べるとうまいが、一匹食べて9円、二匹では18円とつい計算してしまう自分が、ただただ情けない。

（記事は、仁科 邦男様）

## メダカの里

◎村松郷では古くから「めだか」は、塩、醤油を用い佃煮風に仕立て、冬場の大切なタンパク源として重宝されご飯のおかずや御茶漬用として、また「めだか」特有のほろ苦さは酒の肴としても左党にこよなく愛されるなど村松藩の時代から庶民の味として親しまれてきました。一方では藩主の食膳や酒宴の席をも賑わしたと伝えられており高級珍味のイメージも持ち合せておりました。

しかし、近年は土地改良等で「めだか」は住処を追われ、その姿を見かけることが殆どなくなりました。そこで町の有志が昔懐かしい味が忘れられず始めた養殖めだかを利用して、弊社において「養殖めだかの佃煮」として復活させることができました。

ふるさとの味として皆様から未長くご賞味いただければ幸いと存じます。

登録商標第5185号（めだかの里）

（株）松の家 店主敬白

電話 0250-58-7151

## ちょっといい話

「あなたのカラダの一部分と私のカラダの一部分とが触れ合ったら、どんなに素晴らしい事でしょう」と例によって佐伯会長の大きな声。そばに居た私は思わず“ドキッ”としてしまいました。

何のことはない、会長は塾年の女性と握手を交わしていました。あるパーティーの会場のことです。それにしても何と人騒がせなことか。それとも私の思い過ごしでしょうか？

（洋）

# 新潟県立村松高等学校 東京同窓会 会則 (案)

## 第一条 (名称)

この会は、新潟県立村松高等学校東京同窓会(以下「東京同窓会」という)と称し、事務局を東京都内に置く。

## 第二条 (構成)

東京同窓会は旧村松中学校、旧村松高等女学校、現村松高等学校卒業生並びにこれに準ずる人で関東地区に居住する人及び他府県にあって入会を希望する人をもって構成する。

## 第三条 (目的)

東京同窓会は同窓会本部及び母校と連絡・提携を密にし、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することをもって目的とする。

## 第四条 (事業)

東京同窓会は前条の目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会員名簿及び会報の発行。
- 2 親睦会や見学会、研修会などの開催。
- 3 学校、本部との連絡、提携、行事への参加。
- 4 慶弔。
- 5 その他必要と認められた事業。

## 第五条 (会員)

東京同窓会の会員は、正会員と賛助会員とする。正会員は第二条による構成員の内、所定の会費を納入した人とし、賛助会員は本会の目的に賛同し役員会の承認を得た人とする。

## 第六条 (役員)

東京同窓会に次の役員を置く。役員は正会員の中から選出し役員会を構成する。

- 1 会長 一名 役員会で推薦し大会において承認を得る。
- 2 副会長 若干名 常任幹事の中から会長が指名する。
- 3 常任幹事 若干名 幹事の中から会長が指名する。
- 4 幹事 若干名 卒業期別に選出し会長が委嘱する。
- 5 会計監事 二名 幹事の中から会長が指名する。

## 第七条 (任期)

役員は二年とし、重任を妨げない。ただし役員に欠員が生じた時に補充選任された人の任期は残存期間とする。

## 第八条 (任務)

- 1 会長は東京同窓会を代表し会務を統括する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があった場合は会長職を執行する。
- 3 常任幹事は会長を補佐し会長の指示により会務に参画する。
- 4 幹事は会長の指示により会務を行う。
- 5 会計監事は会の財産・会計を監査する。

## 第九条 (会議)

東京同窓会の会議は次のとおりとする。

- 1 大会 毎年一回開催することとし、会長が招集する。必要に応じて臨時に開催することができる。
- 2 役員会 常任幹事会及び幹事会とし、会長が招集する。
- 3 委員会  
(1) 東京同窓会の円滑な運営、活動を図るため次の常任委員会(以下「委員会」という)を設ける。
  - ① 総務委員会  
委員長 一名 副委員長 一名 委員 若干名
  - ② 広報委員会  
委員長 一名 副委員長 一名 委員 若干名

## ③ 財務委員会

委員長 一名 副委員長 一名 委員 若干名

## ④ 事務局

局長 一名 次長 一名 局員 若干名

- (2) 各常任委員会の委員長、副委員長、及び事務局局長、次長は常任幹事の中から会長が選任し、委員及び事務局員は常任幹事及び幹事の中から各委員長、事務局局長が選任し会長が委嘱する。任期は第七条に準ずる。
- (3) 各常任委員会は委員長が招集する。
- (4) 特別実行委員会(以下「実行委員会」という)は会長が必要と認めるときに設置する。正副委員長及び委員は会長が選任し、実行委員会は事業(大会、旅行会、その他の事業等)の終了をもって解散する。

## 第十条 (会費)

- 1 東京同窓会の収入は次のとおりとする。
  - (1) 会費  
東京同窓会の会費は、年3,000円とする。毎年度初めに東京同窓会からの請求により、原則として郵便振り込みをもって払い込むものとする。
  - (2) 寄付金
  - (3) その他の収入
- 2 東京同窓会の会計年度は毎年4月1日より3月31日までとする。
- 3 東京同窓会の会計収支は、大会で報告し承認を得ることとする。

## 第十一条 (その他)

本規約に定めていない事項については役員会に於いて協議し、決定することとする。

## 第十二条 (改正)

本規約の改正については役員会において審議し、大会で承認を得るものとする。

## (附則)

- 1 この規約は平成6年6月4日より施行する。
- 2 平成11年4月1日改正

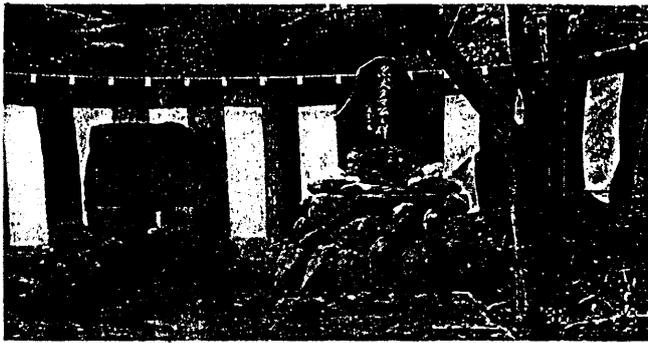
## (細則)

- 1 各委員会の役割分担、業務内容は、大要次の通りとする。
  - (1) 総務委員会  
① 会員名簿の作成、管理保管。  
② 東京同窓会運営に必要な提案事項のまとめ及び一般会員からの提案事項のまとめ。  
③ 役員会会議の司会。  
④ 他の委員会に属しない事項の企画立案。
  - (2) 広報委員会  
① 東京同窓会の広報、宣伝に関する事項の企画立案。  
② 会報の編集発行の企画立案及び実施。
  - (3) 財務委員会  
① 東京同窓会の所有する物品の管理保管。  
② 会費の請求、受領(寄付金等を含む)に関する事項。  
③ 金銭出納簿の記帳、預金通帳等の管理保管。  
④ 決算書の作成。
  - (4) 事務局  
① 各種会合等の連絡、通知。  
② 郵便振り込み会費の受取り、財務委員会へ関係書類の送付。  
③ 郵便物等の受取り、関係役員への送付。  
④ 他の委員会に属しない事項の事務的処理。
- 2 慶弔は常任幹事会に於いてその都度決定する。緊急の場合は正副会長で決定する。

# 忠犬タマ公の碑

渋谷駅前の「忠犬ハチ公」の碑は余りにも有名であるが、これ以上の美談の持ち主である新潟の「忠犬タマ公」の碑が、横須賀市の桜の名所衣笠山公園の中腹の広場に建立されている。碑文の原文は次の通りである。

「忠犬タマ公の碑」について  
忠犬タマ公は新潟県中蒲原郡村松町（旧川内村）に住む刈田吉太郎氏の飼犬であるが、

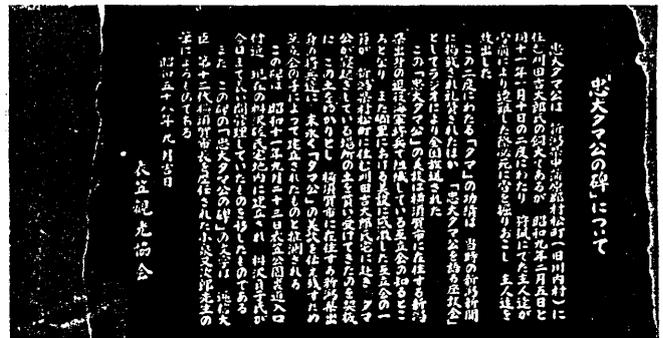


昭和九年二月五日と同十一年一月十日の二度にわたり狩猟に出た主人達が雪崩により遭難した際、必死に雪を掘りおこし主人達を救出した。

この二度にわたる「タマ」の功績は当時の新潟新聞に掲載され礼賛されたほか「忠犬タマ公を語る座談会」としてラジオにより全国放送された。

この「忠犬タマ公」の美談は横須賀市に在住する新潟県出身の退役海軍将兵で組織している互立会の知るところなり、また郷里における美談に感激した互立会の一員が新潟県村松町に住む刈田吉太郎氏宅に赴き、タマ公が寝起きしている場所の土を貰い受けてきたのを契機に、この土をゆかりとし、横須賀市に在住する新潟県出身の将兵達に末永く「タマ公」の美談を伝い残すため互立会の手によって建立されたものと推測される。

この碑は昭和十一年九月二十三日衣笠公園裏道入口付近現在の榎沢氏宅内に建立



され、榎沢貞子氏が今日まで長い間管理していたものを現地に移したものである。

またこの碑の「忠犬タマ公の碑」の文字は通信大臣方十三代横須賀市長を歴任された小泉又次郎先生の筆によるものである。

昭和五十八年九月吉日

衣笠観光協会

以上が碑の全文であるが、毎年春の衣笠山桜祭りの山開きの日の安全祈願祭のあと、忠犬タマ公の碑の前で横須賀市長以下来賓、関係者によ

て慰霊祭が行われている。此処で考えさせられるのは、此の碑が、風雲急な大戦前の昭和十一年に、新潟県出身の海軍軍人のOBによって建てられたと言う事であり、新潟県人の心の優しさ、郷土愛に深い感銘を禁じ得ない。最初に建立されて以来六十二年、遠く横須賀の地に根付いて、多くの市民に親しまれ、此の地に在住する新潟県人の心の灯となつている「忠犬タマ公の碑」のために乾盃。

（広報 岡村）

桜咲く衣笠城趾に鎮もれる  
忠犬の碑を永久に忘れず

猶、掲載の写真は「横須賀新潟県人会副会長大武功さんより提供されたもので、本文も同会三十周年記念誌に負う所が多い。

練馬区 福原平八郎  
親友に三ちゃんという友ありていつも励ます東京歌壇

（感想）三ちゃんは作者の同級生。陸軍中野学校出身で武蔵野油店の三男と注記のある一首。東京歌壇は作者だけでなく、多くの読者のものである事に感激。お二人共益々御元気で。

この忠犬タマ公の記事は 東京新潟県人会々報平成11年3月号に掲載されたものであります。許しを得て 本会報に転載いたしました。また続編も出ると聞いております、お楽しみに。なお 支部会報第16号に 忠犬タマ公のことを詳しく紹介しておりますので（表紙写真とも）御覧ください。

## 東京同窓会 組織

(平成11年4月1日より)

### 会員総会

### 幹事会

### 常任幹事会

- ・会長 佐伯 益一 (旧中27回)
- ・副会長 伊藤 勇五 (旧中33回)  
" 岡本 和子 (旧女25回)
- (総務委員会)
  - ・委員長 齊藤 和男 (旧中33)
  - ・副委員長 関 孝世 (高3)
- (財務委員会)
  - ・委員長 鈴木多喜男 (高4)
  - ・副委員長 深見 洋子 (高7)
- (広報委員会)
  - ・委員長 沢出 赳允 (高6)
  - ・副委員長
- 「会計監査」・監事 塚田 勝 (高8)  
" 佐藤 玲子 (女25)
- 「事務局」・事務局長 八木又一郎 (高7)  
" 次長 大橋 貞夫 (高10)

## ちよっといひ・お話

◎5年程前だったと思う。11月末に村松へ行ったとき夕食時の酒を買おうと近くの酒屋へ行き、いつものように「越後社氏」を求めた。帰ろうとして、ふと横に「にこり酒」とあるのに気付いた。聞けば同じく金盞盃酒造の生きている酒で季節限定だという。発酵が進んで起こる爆発を防ぐために、瓶の口の中心に小さな穴が開けてある。「今夜の晩酌は決まり」と、にこり酒を買って家にもどった。にこりが下に溜まっているので、逆さにしてちよっといひ振り元に戻すと「シューッ」と音がして小さな穴から酒が吹き出した。やや強めだが美味であった。帰るとき土産にしようとして再び酒屋へ行き「東京へ送って貰えるだろうか」と聞くと、店主はちょっと困ったような顔をしたが「じゃあー、セロテープで口を軽く押さえて送ってみましょうか」と言う。届いた時、酒は三分の一程減っていたが、美味かった。家人はじめ、皆えらく気に入って、以来毎年11月に村松へ行くと頼んで来ることとなった。三年目に、同期生が村松で酒屋を営んでいる事を知ってからは、その店から毎年春に二本、年が明けてから二本送って貰っている。年が明けてからの方が勢いがやや温和しくなって円やかさが増し、飲み心地が良くなっている。そこで又「生きている酒」を認識することになるのだが、つい飲み過ぎてしまう。

同窓の方々に話をして、あまり知らないようなので新年会の折、一本持ち込んだ。会報編集部では二度飲んでいて美味しさを知っている、大橋貞ちゃんは残りを自分の目の前に置いた。そして何時の間にか空になっていた。それから珍事が起こった。

二次会で彼は珍しくも完全に出来上がったのだ。一方常に出来上がってしまう、石黒四郎ちゃんは、今年度大会の司会を仰せつかった為かどうかわからないが、最後迄シャンとして居て更に、貞ちゃんが忘れていったコートを持って帰り無事に届けたのだ。

皆様、本当に美味しいですから一度お試しあれ。但し11月末から2月末頃までしかありませんので要注意！以後は、多分「酔」に化ける事となるだろう。(洋)

## 分かりにくい村松の町名

(住居表示)

佐伯 益一 (旧中27)

私は旧制中学の五年間、一部の期間を除いてほとんど磐越西線・鹿瀬駅からの汽車通学であった。授業が終れば部活動の特別な事情が無い限り、一目散に村松駅へ駆け込んだものである。従って、村松の町名については、あまりよくは知らない。

最近、同窓会やクラス会などの関係で村松町へ手紙を出す機会が極めて多くなった。その度に思うことだが、「何と村松町の町名、住居表示の分かりにくさよ」と痛感する。昔の営所通り、上町、横町、寺町、長柄町など知っているつもりだが、解せないのは甲何番地、乙何番地などと云われると、さっぱり分からない。丙はあるのか、ないのか？全然イメージが湧いてこない。なんとかならぬものかと考える。産経新聞で見たが、昭和四十年代、全国に吹き荒れた「住居表示整備」という名の暴風は、各地で由緒ある地名を解体したり、抹殺したりした。いま、その反省と悔恨の動きがおこり、旧町名復活を検討するところが出てきている。地名は先人の貴重なメッセージであり、大切な文化遺産と考えるべきだろう、と。

私の郷里の鹿瀬町にも、これと同じような甲、乙をつけた集落がある。古い私には、やはり旧集落名が懐かしい。この際、行政当局は全国に先駆けて改革を考えてみたら如何かと提言を思ってみたりしてもいる。

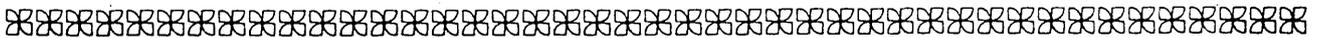
ついでに書かせていただくが、町(まち)と町(ちょう)の呼び名の違いについて、誰かに聞いた事がある。(まち)は武士の居る所、お寺のある所であり、(ちょう)は町民、職人の住む所であると。真偽のほどは分からない。また、丁(ちょう)と呼ばれた所もある。丁は辞書を見ると「枝葉のこと、草木繁茂のかたち」転じて盛んなるさまとある。また「長さの単位」でもある。これで困んだ所が何丁目と云われているのかも知れぬ。

一丁は、長さ六十間、一間は約1.8mである。新宿区の東部に小さな地区の町名が、ひしめいているのも合点がゆく。東京に、田原町・鶯谷などと駅名があっても地名が無いのも面白い。探して見ればまだまだある筈。一度、地図を眺めてみたら如何でしょう。



## ちよっといひ話

新潟県人会々報 {新潟県人} 3月号に、忠犬タマ公の碑、という記事が掲載されていた。県人会役員会の時、筆者の広報副委員長の岡村さんから、たまたまこの話が出た。「実はこの記事を読んだ俳句歌仲間、福原平八郎さん(旧中26回卒)からの連絡があって松高同窓会東京支部でも、このタマ公のことを探りあげていたと支部会報・NO16を送って頂いた。不思議な縁ですな」と語っておられた。すると、広川委員長が「あなたの隣にいる佐伯さんが、村松高校同窓会の東京支部長ですよ」と指さされて二度ビックリ。縁は異なるものというが、人と人との出会い交流が深まることは、こういう所から始まるのだなあ！と痛感した次第。  
<俳句・短歌はP14、P16に掲載> (伯)



## 訃報

丸山 一夫 様

(旧中21回卒)

平成11年 1月 ご逝去

宮 健三 様

(旧中25回卒)

平成11年 1月 ご逝去

謹んで哀悼の意を表しご冥福を  
お祈りいたします



SL写真……かのせ広報 No516 より

## S L 磐越西線を定期運行

(新潟日報記事より)

旧国鉄時代、代表的な急行列車用の蒸気機関車として活躍し「貴婦人」の愛称で親しまれたSL……C57-180が三十年ぶりに、4月29日から磐越西線の新津-会津若松間に復活した。

このSLは、1969(昭和44)年から新津市の第一小学校の校庭に保存されていた。約2億円かけてJR大宮工場で復元作業を行い「SLばんえつ物語号」と名付け、架線のない沿線風景を売り物に新津-会津若松間111㎞を一日一往復している。

SL運行は冬季を除く4月29日から11月末までの、土、日曜、連休、夏休みの87日間。このうち10日間は運転区間を延長、会津若松-郡山間も運行して上越、東北新幹線と結んだ回遊型とした。

ダイヤは新津発午前10時、会津若松着午後1時18分。会津若松発午後3時13分、新津着午後6時24分。距離111㎞を3時間18分、時速30~50㎞で運行。途中、五泉、三川などに停車、客車は6両編成で定員は500人。全席指定で通常の指定券と同様、1ヶ月前から発売。料金は指定券を含め片道大人、2400円。

### S L ばんえつ物語号/時刻表

(会津若松 行)			(新津 行)	
新津	10:00	↓	新津	18:24
五泉	10:15		五泉	18:08
咲花	10:32		咲花	17:52
三川	10:49		三川	17:34
津川	11:15		津川	17:22
日出谷	11:32		日出谷	16:53
野沢	12:03		野沢	16:28
山都	12:34		山都	15:53
喜多方	12:51	↑	喜多方	15:38
会津若松	13:18		会津若松	15:13

練馬区 福原平八郎  
 帰省駅手折らんとして雪椿  
 (評) 田舎の雪椿だ。「手折らんとして」で、止めた所に詩がある。「懐かしさのあまり」である。

四月から、東京同窓会と名称変更され、同時に会則も新規に、委員会も新しく「三委員会」が設置されました。大会号は前年度の会費納入者名簿や決算書をはじめ事務的な報告ページが多く、ちよつと残念な感じがいたします。今までは、表紙や寄稿、写真等なるべく村松・五泉・新津・津川地区を題材としてきましたが、東京同窓会と改称を期して会員の皆様の生活地域を、より多く掲載したいと考えております。皆様のご協力を賜りたくお願い少々、ご健勝をお祈り申しあげます。

編集後記

平成11年6月 第27号

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

事務局 〒157-0061 東京都世田谷区北烏山3-13-15-104  
(八木又一郎 方)

電話番号・FAX 03-3307-1048